

# 古文 読解問題 「土佐日記」～門出～①

男もすなる日記と<sup>(ア)</sup>いふものを、女もしてみむとて、するなり。

その年の、十二月の二十日あまり一日の日の<sup>(①)</sup>戌の時に門出す。その由、<sup>(イ)</sup>いさかにものに書きつく。ある人、<sup>(ア)</sup>県の四年五年果てて、例のことどもみなし終へて、解由など取りて、住む館より出でて、船に<sup>(エ)</sup>乗るべき所へ渡る。かれこれ、知る知らぬ、送りす。年ごろよく比べつる人々なむ、別れ難く思ひて、日しきりにとかく<sup>(ア)</sup>しつつ、ののしるうちに、夜更けぬ。

二十二日に、和泉の国までと、平らかに願<sup>(エ)</sup>立つ。藤原のときざね、船路なれど、馬のはなむけす。上中下、酔ひ飽きて、いとあやしく、潮海のほとりにて、あざれあへり。

二十三日。八木のやすのりといふ人あり。<sup>(②)</sup>この人、國に必ずしも言ひ使ふ者にもあらざなり。これぞ、たたはしきやうにて、馬のはなむけしたる。守柄にやあらむ、国人の心の常として、「今は。」とて見えざなるを、<sup>(③)</sup>心ある者は、恥ぢずになむ来ける。これは、物によりて褒むるにしもあらず。

二十四日。講師、馬のはなむけしに出でませり。ありとある上下、童まで酔ひ痴れて、一文字をだに知らぬ者、しが足は十文字に踏みてぞ遊ぶ。

問一・次の「土佐日記」について説明した文の(ア)～(オ)に入る言葉を答えなさい。

「土佐日記」は(ア)時代に(イ)によつて書かれた日記文学である。(ウ)文字で書かれた日本最古の日記文学で、(エ)国の受領としての任期を終え、故郷の平安京に戻るまでの約50日の旅路について書かれている。(イ)は(オ)の編者としても知られている。

問二・傍線部(a)～(e)の動詞、形容詞、形容動詞の活用の種類と活用形を答えなさい。

問三・傍線部①「戌の時」とあるが現代の時間で何時を表しているか、次の選択肢ア～オの中から適切なモノを選びなさい。

ア 午前六時頃 イ 午前十時頃 ウ 午後二時頃 エ 午後六時頃 オ 午後八時頃

問四・傍線部②「この人、國に必ずしも言ひ使ふ者にもあらざなり」を現代語訳しなさい。

問五・傍線部③「心ある者は、恥ぢずになむ来ける」とあるが「心ある人」どのような者を指しているかを明確にして現代語訳しなさい。

# 読解問題「土佐日記「門出」」① 解答・解説

問一 ア 平安(中期) イ 紀貫之 ウ 仮名 エ 土佐 オ 古今和歌集

問二 (a) ハ行四段活用 連体形

…打消の語をつけると「言はず」となるため四段活用。下に名詞「もの」が続いているため連体形と判断できる。

(b) 形容動詞 ナリ活用 連用形

…形容動詞「いささかなり」の連用形。「ほんのわずかだ」と訳す。

(c) ラ行四段活用 終止形

…打消の語をつけると「乗らず」となるため四段活用。下の「べし」が終止接続なので終止形。

(d) サ行変格活用 連用形

(e) タ行下一段活用 終止形

問三 オ

…古文の中での時間は午後十一時から二時間ごとに、十二支が割り振られている。(例子(ね)の刻なら午後十一時から午前一時、丑の刻なら午前一時から午前三時)「戌の刻」は、午後七時から午後九時になるため、オの午後八時ごろが正解となる。

問四 この人は、国司の役所で必ずしも召し使っている者でもないようである。

問五 道理をわきまえている者は、ひと目を気にせずに来た

…「心ある人」は物の道理をわきまえた人、思いやりのある人を意味する。